

9784889917796
1929979005146
ISBN4-88991-779-9
C9979 ¥514E
定価:本体514円(税別)
雑誌52640-79
メディアファクトリー
MEDIA FACTORY



ますむら・ひろし

昭和27年生まれ
山形県出身。
昭和48年デビュー作『霧にむせぶ夜』が
『週刊少年ジャンプ』に掲載。
その後青林堂に入り
雑誌『ガロ』を舞台に活躍、独立後現在に至る。
平成9年には『アタゴオル玉手箱』で
日本漫画家協会賞大賞受賞。
宮沢賢治作品の漫画化にも意欲的に取り組み、
独自の感性で大胆に視覚化している。
中でも『銀河鉄道の夜』は
昭和60年、劇場アニメとして公開、
マンガファンだけでなく
宮沢賢治愛好家の間でも高い評価を得ている。

装画・ますむら・ひろし
装幀・多田和博＋岡田ひとみ
フォーマットデザイン・フィールドワーク

ATAGOUL is Cat's Forest

アタゴオルは猫の森 ②

ますむら・ひろし



アタゴオルは猫の森 ◇2◇

ATAGOUL is Cat's Forest

第1話 雨ノ尾ッポ




毎日 よく降るなあ
梅雨だからね
雨がお酒 だったら ず——っと降ってても いいんだけどさあ
んっ
ぐ——っ ぐ——っ オレたち 欠食ドラネコ団
やーい テンプラに ヒデヨシ
葉っぱの傘さして 地味だぜえ


オレたちなんか本物の傘なんだぞ
葉っぱ猫や――い
ぐぞお
ムカつくなあ
傘屋はどこだーっ
ザーッ
んっ
あらおふたりさん
ねえその傘どこで買った?
蟹かまぼこ岩のとこで
でも変な傘屋だったよ
へん?
君が見たら普通かな?
ザーッ


お天気だったら
傘をさし〜〜っ
イエッ
イエッ
梅雨になったら
傘と寝る〜〜っ
ムッ
アイツかぁ
お客さん 傘
買わんかね——っ
買うぜ
派手な奴を
くれ——っ
で
親父よ
傘どこに
あるの？
そー簡単に
傘は見せねえよ
一本 8銅貨
買うのかい
買わないのかい


買うのよオ
買うから見せるのよオ
お黙りおデブちゃん
ら
客に選ばれるようではウチの傘じゃありません
お客様を傘が選んでこそ傘たるものでしょ〜〜〜っイエ〜〜〜〜〜ッ
なに言ってんだかサーッパリ判んねえけど
ホレッ1本買うぜ
オレも1本買おう
それじゃあ帽子のアンちゃんから始めっか
ここで 雨の唄歌うのよ 即興でな
ええっ即興で……
行けテンプラ
ザーーッ



紫陽花の青が
雨音を聞いてるよォ
ぷっ
声ふるえちゃって しっかも地味な唄
ふう
パチ パチ
おっ
かっこいい
青くて 地味ねえ
どーーれ 次はオレだぜ
即興 というのはね
おまえの生き方だよ
ところで そっきょうって なんだあ?


オレの生き方?
そう 行き当たりばったり
口から出まかせ
なんだ そーいう ことかあ
雨の唄だな
雨は空に住む大ダコがあタラタラ流すうヨダレなのォ
毎日ダッスリ酒飲めはあ
流すヨダレも酒の味ーっ
酒降れザーザーッ その酒をォ
でっかい傘の杯でえ グビグビグビ
うっ
んっ


酒飲めー
大ダコッ
ヒッ
ヒッ
どうしたんですか
あんまり能天気な唄すぎて……
ぐわ
ああ
コレはっ
ちょっとーっ
わっ
なんだこの親父


「雨ノ尾ッポ」だろう コレ
つっ……ついに出ましたな
ニャ？
アンタすごいね「雨ノ尾ッポ」手に入れたんだぞ
なに言ってんのかすあっぱり判んねよっ
ところでアンタも傘屋なの？
傘屋じゃないよ
「雨ノ尾ッポ」が欲しくて
何百回も歌ってきたんだ
ザーッ
「雨ノ尾ッポ」ってなんなのですか
傘だよ
伝説の傘 最高の傘だよ


あれ
ザ
急に雨が激しく……
おっ
来たっ
なんだコレ
種みたいだぞ
それが傘の種です
いいなあ
ああうらやましい


あのねっ これ君に りましょーっ
すんごく 高くっっ
えっ ホントか
バカモノちゃん
傘が持ち主を選んだのです 売ったらその種くさりますぞ
ひぇーーっ
翌日
ザーー
おーい ヒデヨシッ
あっ
雨降ってんのに おまえなにやってんだ
思いやりだよ 熱い思いやり
ぐっ ぐっ
バシュ──ッ


ううっ
なんだ このニオイ
マグロの頭を煮込んで ぶっかけてるんです
もうダメです 種くさってますよ
なんてこと するんだよォ おまえは!!
栄養だべよォ
自分の 胃袋と 種を いっしょに するなよ
ああ
すごい 気配が
えっ
わっ
らっ
発芽 したっ



どうだ
栄養が効いたぜ
熱湯浴びても発芽するとはたいした種だな
ちょっとデカくないかい？
ザー
翌日
なんかよォ
ああ怪力のおまえしか持てないな
スバラシイ さあさあ引っこぬいてみよ
うりゃ
おっ


パッ
いえ〜〜っ
ヒエッ
こつけなモノが最高の傘!?
オレはこつけなモノのために何年もついやして……
心が傘になるのだ コヤツの心がこんな形なのだ
カッコいい〜〜っ

★こつけな＝こんな


しっかし
重いっ
んっ
ああ
これは……!!
ザーーッ
激しい雨の日は
どこにも出られない
ポンポ
ザーッ
でも
この傘なら


会いたい人に　会いに行ける


思った所へフワフワと行けるなんて
最高の傘だなあ
ところでヒデヨシ君どこへ向かってるんだ?
パンツの家だよ
ぜんぜん逆方向だぞ
ハテ!! オレはいつもここ通るのよォ
しかし……この傘
どうして「雨ノ尾ッポ」っていうのかな?
パンツも傘屋にそんなこと聞いてたけどよ
傘屋はこう歌ったのよ


「尾ッポ尾ッポと
さわぐな尾ッポ
体 いとしい
傘の中」
フーム……
体が傘の中
9日後
ミィーーーン
暑ぢ〜〜〜っ
あらら さすがに
汗猫とデヨシ君
マタタビ
ビールは
汗のもと
しかし
今年の夏は
猛烈に
暑いですなあ
そおなの
よーっ
苦しいのよォ
汗の滝
なのよーっ
あれ


なんだ
アレは？
傘の実
じゃない
ですか？
ポン
らっ
なんだ
コリャあ
「体は傘の
中」って
コレのこと
じゃないのか
欲しい
あらら
シャリ
シャリ
尻っぽ
回るぞ
うっ



これオルゴオルですね
なんか地味な音階だな
不思議な旋律だよ
欲しい
!
なな なんですか ヒエーーッ
3日後
で…本日の注文は？
月街峠が3カ所 それと 風鈴森の ガラクタ通り それに……
よーし 出発じゃ
まだかなあ
おっ来たぞ
お待ちかねーっ


夕立一丁──っ
ザ──ッ
おお……
「灼熱の」



第2話 胸鳴(むねなり)胸泣(むねなき)かき氷




ヒゲタン
宿題やったか
今やってるよォ 父ちゃん
あいつ……
また アンなところで……
ミーン
ぐーっ
ぐーっ
いー気な もんだよなあ
一日中寝て なんもせず 他人の家の 台所で盗み食いして 暮らすなんて
なんの努力もせず 字も読めず
あんな猫に なりたいか?
いやですっ
「なんの努力も せず」って……


もしも
なまけ猫ヒデヨシが
一生懸命勉強してたら
どんな猫になってた
んだろう？
ボ
ボン
コ
あれ
発見
したぞい
オホホッ
こんな暑い時に……
まったく
馬鹿は
馬鹿を呼ぶ
もんだなあ
あにすんなよ…
う〜〜っ
ヒデヨシくん
オラだよ
オラ？
オラさん
なのね
わあっ
あの方は!!


貴方は伝説のかき氷屋美茶さんでは？
そーだよ
おっ
酒飲むと狂暴になるオヤジだな
ひっさしぶり!! カキ氷タダで食わせろ
おまえの助けが必要なんだ
たっぷり食わせるから 手つだえ
い～けど なにやるのさ
このカッコ見たら判んべよぉ 蛇腹沼に潜るんだす
さては宝探しだな
酢ダコ製のカンムリだろ
そんなんじゃねえべよ
でも 潜るたって アタゴオルじゃ そんなカッコしなくて いいんよ
えっ ホントか？


よっこらしょ
なんなのですか この器械
オラの商売道具だよ
鳥霧山で会った棘野目博士に作ってもらったんだ
棘野目? どっかで聞いたことあるな
おまえが研究のジャマばかりするから
博士は山中に身を隠したんだろ
そーいえば
探しまわっても住処見つかんねのよ
それでは
行くべっさっ


う
わほう
ホントだ
風鱗キノコ液
飲んだら……
息ができる
湧き水は
この辺が
激しいですよ
オオ
ここに
するっぺ
よーし
これで
一晩も
すれば…
そんじゃ
テンプラ君
ためしに
かぶって
うっ



痛てて なんですコレ?
脳ミソの活動が輝くのさ
活発すぎると頭が痛くなる
ヒデヨシ君かぶってみよ——っ
し——ん
ペカ
ほとんど止まってる 思ってる以上に恐ろしい脳ミソだな
ぜんぜん痛くないぞ
当然だよ
よーし お主でいこう
おんや
なんですアレ?


ええ 床屋なの コレ？
そーよ 唐あげ親父の
あら 美茶ん いらっしゃい
水中床屋とは やりますなあ
そーだ オレ 散髪してもらおう
ヒデヨシ君 なにかぶってん ですか？
美茶の手つだい なのよーーっ
では 始めっか
オウ なんでも 来い
おまえの小さい頃のこと 想い出してみてけろ


しゃっぱり
憶えてねーっ
美茶ん
ムリですよ さっきの事も 憶えてないんだから
夢のスープは いかがですか
おお
夢の中なら 想い出すかも しれないね
フクン
プク松翁 出馬か


ツメの助に「耳に注意の旋律」を…
腹黒いタコめ その細い目で にらんでも
ドゥッフッフッ
なに見てんだ コイツ？


酢ダコか
大ダコ
どっちみち
タコ系の夢
ですよ
しょーがない
なあ……
フエッ
そんな所に
逃げ込んで
パチ
パチ
おお
来た
パチ
なんなんです
コレは
ヒデ丸ちゃん
ついて来な
あっ
湧き水が
凍ってる



記憶力はないのに
気合だけは恐ろしい奴だ
美茶さん まさか この氷で かき氷!?
いかにも
「胸鳴胸泣かき氷」でえす
胸鳴…胸泣?
翌日
オレたちゃ欠食ドラネコ団グ――
暑ちーよォ たまんないよォ
親分 氷室氷屋で氷盗みましょーよ
馬鹿やろ つかまるとまた氷づけにされるぞ
こっ



氷の山だ
のぼり~を 立ててぇ~~~っ リヤカーひいてぇ [redacted]のよーに やって[redacted]るう
すげえ 氷山だぜ
あい唄 喫茶しゃ ねえかっ
あんな所で かき氷屋 開いてるぞ
おお親分 ついてますよ
ほら 氷がっ
シーっ んめえ
ガリ ゴリ
しかし あの氷山 おかしな形 しているなあ
カリ カリ
あれは ヨネザアトの山さ
あら 物知りパンツ
ヨネザアトの 西方にある 斜平山だ


なんでそんな山が浮かんでるんだ？
それをこれから調べに行くんだよ
んめー
美茶ん おひさしぶり
おう パンツ君
しかし あの氷山 おもしろい形ですねーっ
別に どーってことないべ
あれは ヨネザアドの 斜平山だよ
ナデラ山!?
さすが パンツ君 だなあ
どうして斜平山の形が 氷山に？



ヒデヨシ君の記憶の奥にある
郷里の山だからだよ
フルサト
フルサトってどんな砂糖なんだ?
おまえが生まれた所だよ
記憶にございません
そしてこの氷こそあの氷山の奥に眠っている特別な氷……
特別な?
いかにも


「胸鳴胸泣かき氷」です
シュ
シャッ
シャッ
「胸鳴胸泣かき氷」?
ホラ みなさん 食べてみな
トン
では さっそく
んっ
んががが
あれ……
確かに 氷なのに
ぜんぜん 冷たくないぞ ……でも……



あれ
胸がチクチクする
わわ私もです
なんですコレ
それが「胸鳴」だよ
ヒデヨシ君の記憶の郷里は
すべての者の郷里へ通じるのだす
う
あっ
ら
これは……
もしも 子供の頃から精いっぱい努力していたら


たどりついた姿
ええ!?
ミーン
ミーッ


努力していたら
たどりついた……
わわ……
私の胸に
ついてるのは
バイオリン弾き
最大の栄誉
ヒレユマ音楽賞
じゃないですかっ
2個もっ
オレは……
なんだろう
なにか発明してる
みたいだな
パンツ君が
持っている
あれは
いったい？
伝説の…タペ文明の
石板だよっ
どうやって……
発見したんだ!?


うう……寒い
ああ
胸がシンシンと寒くなってきた
夏だというのに吹雪の中に立ってるみたいだな
ヒンヤリさわさわ
これが胸泣かき氷だよ
ぜんぜん寒くねえぞ
おまえねえ
なんであんなにデロデロなんだよ
一生懸命努力に努力を重ねた姿がデロデロかっ
らっ
おっ
ビシッとしたぞ
う——む
なんてったって


〝素〟が一番なのサ

第3話 心の耳




らんらら
らりん
けっ
「大陸の歩き方
アタゴオル地方編」に…
「この森にはタップリ
太って ヘラヘラ歌ったり
踊ったりしている猫が
いますが…」
「けっして関わらない
ように注意しましょう」
「旅行者の荷物が
盗まれたり
食物をタカられたり
ロクなことしません」
あーっ君
旅のお方かね
うっ


はあ……
この辺にヤニ・パンツ氏の
お宅があると聞いて
来たんですが
パンツの
家なら
おとといボーボー
火事で焼けて無いぜ
ええっ
焼けた!
それで
パンツさんは?
こんがりと
焼き猫になって
しまったのよォ
なにデタラメ
言ってんだ
あら
パンツ
おお
貴方が
ヤニ・パンツ先生



私 エカイシゾアの八耳新聞の植物記者タンポエという者です
お手紙くれた方ですね
エカイシゾアってなんだ?
ヨネザアド州の南にある巨大な鉱物都市ですよ!!
エカイシゾアを知らないなんて…ククッ
まるでタコを知らない漁師みたいなもんですなあ
タコは知らなくても食えればイイのさ
パンツの家
パラネ草の古代分布図などパンツ先生の予言通りに発見されていますね
あれは植物文字の原型を調べればわかるよ


すばらしい
すばらしすぎます
ぐおお
しかし…言っちゃあなんですがこのアタゴオルという辺境の地で
どうやって最新の情報を手に入れるんですか？
この地にある新聞といえば「カタモゴレかわら版」だけでしょう？
ん？
そんなの知らないよ 唯一の「波風かわら版」はとっくにつぶれてるし
ええ!! それじゃ
パンツ先生はおとといのヨネザアドの水祭事件を
どうして知ってるんですか
フフッ
どうしても知りたければスミレ博士と行動をともにすることだね


スミレ博士？
ニャ
もぞもぞもぞ
はいはい 今 お髭をつけます
ら
ヒゲ忘れた
博士はたぶん
貴方につきまとうだろうが
彼がきっと教えてくれるぜ
ほーっ
それでそのスミレ博士はどちらにお住まいですか
さっ
ウーム 彼は住所不定だからなあ……
それにしても「カタモゴレかわら版社」って
住所はこの辺なんだが……
んっ



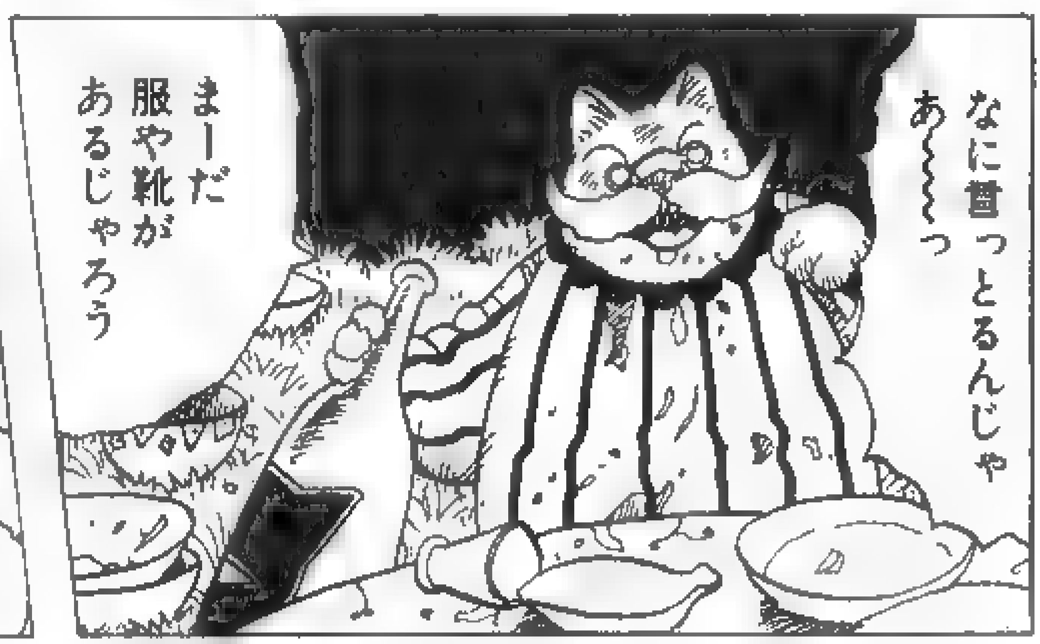
カタモゴレ かわら版は いらんかねーっ
おお あったぞ
ここが かわら版社 ですか?
いかにも ワシが 主筆の ホシノミヤ スミレ博士 ですじゃ
ああっ
貴方様が スミレ博士 でありますか
どうも初めまして 私 エカイシゾアの 八耳新聞社の タンポエといいます
うっ
臭いっ
臭い?
はて?
最近は「マグロの腹わた香水」は つけとらんがのう


汗っかきが
1カ月も風呂に
入っていない
臭いですよ……
この臭いは!!
あんた
ヒデヨシ
でしょう
断固
ワシは
スミレじゃぞ
まったくよォ
……
取材に
来たんじゃろ
ホレホレ
取材せんか
…じゃあ…
かわら版の発行
部数は?
3枚
だな
3枚
なにしろ
手書き
だからのう
それで
どんな
記事を?
万引き情報


万引き情報
いかにも貴重なやつよ たとえば「腹ガラ魚店の親父は 眠り花粉が効かない」とかな
「食いにげ日記」も ウケとるぞ
これが話題の かわら版じゃ
なんです この紋様？
スミレ文字じゃよ ワシしか読めぬ 一枚3銀貨
こつけなもの 3銀貨なんて 誰も買いませんよ
ところが 毎回 全部 売れるのよお
魚屋 うどん屋 みんなほしがるのよォ
えっ どうして？


かわら版 買った店は 一カ月間
ヒデヨシ君に おそわれないのじゃ
アンタ それって
ゆすり たかりですよ
まったく!! 最低猫めっ 新聞業界の クズだよっ
あーらら
パンツがなんで 新聞も読まずに 物知りなのか? 知りたくないのかな
うっ
そうなんだ……
おっ教えてくれ
お願い します
いーで しょーっ
でも 「クズ」呼ばわりの 心の痛みは 刺し身とお酒の お薬じゃないと 治らんのじゃが
あっ


うほほほほ
んめえ〜〜〜〜
青目鯛の
生き造り
大皿追加ーっ
もう……
お金 無いですよォ


なに言っとるんじゃ
あ〜〜っ
ま〜だ
服や靴が
あるじゃろう


貴様
オレの身ぐるみ
まで
はぐのかあ


はぎましょう
ペロ〜〜〜ッとな
この
猫でなしっ
……
あのお
パンツの
物知りの秘密
オレが
教えましょうか?
え?
ホントですか
コラだまされるな
そいつもたかりだぞ
テンプラと
いいます
見てて あんまり
忍びなくて……
それにしても

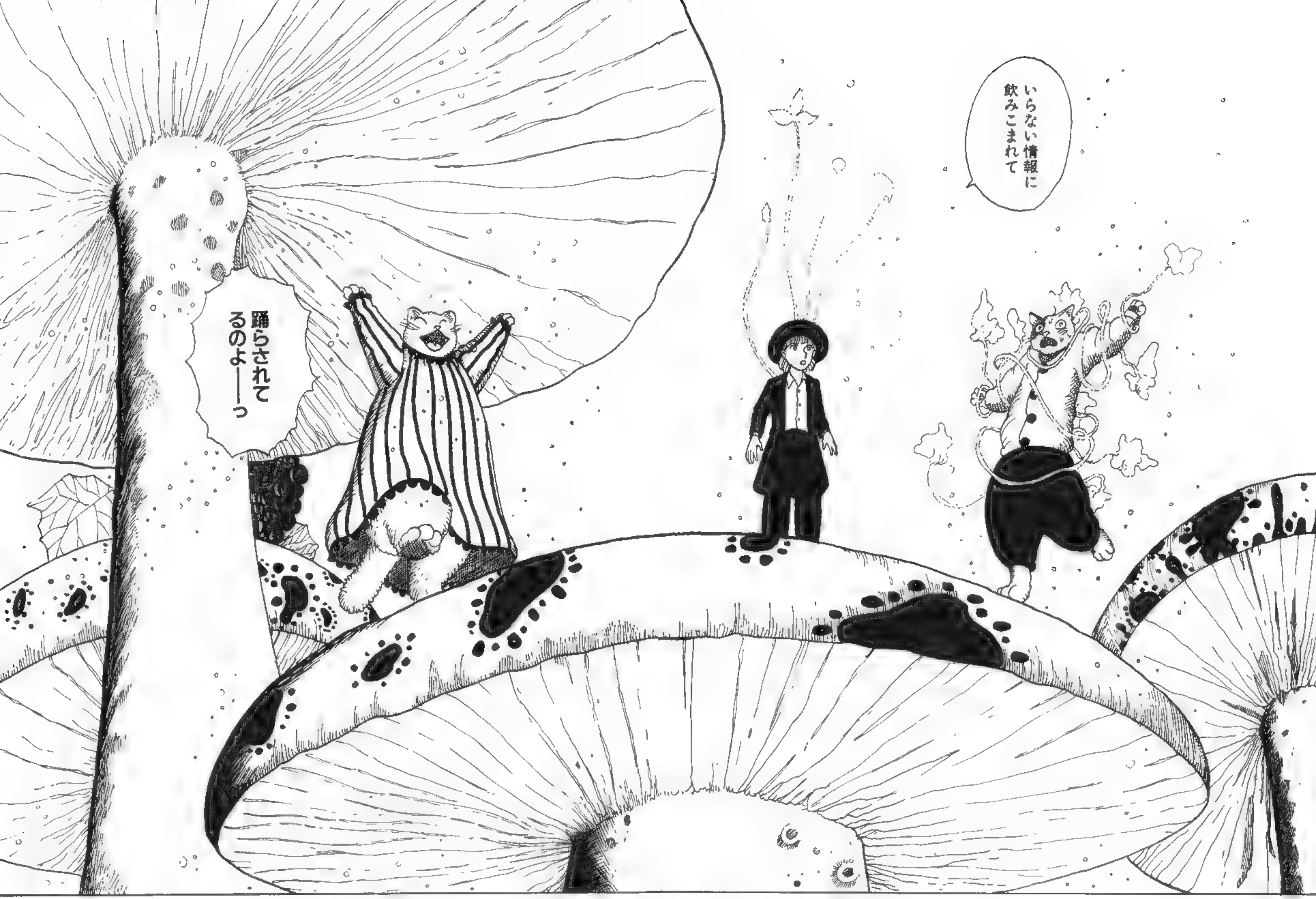

あんな猫でなし野郎をどうしてこの森は放置してるんですか
友だちなんか誰もいないでしょう
オレ友だちです
えーーっ
心の奥でつながってんのよね〜〜〜っ
それで……物知りパンツ氏の情報のすばやさの秘密というのは？
もうまもなくですよっ
言うなっテンプラ
オレが教えてやるからウドン10杯おごってくれーっ
貴様あんだけ食ってまだたかるのかっ
食ったのはスミレ博士オレはマダ食ってないヒデヨシなのよーーっ
！


うわ
いえ——っ
ヨネザアド
猫ノ目時計協会は
鳴き声の時刻を
昨日のモゾル屋
長男の笑った回数は
237回
うう
モリカンや
ドラコ石の
上にいる
なんだコレ
頭の中が
ギッシリに
なっていくっ
助けて
てっテンプラ君
ななめに
切ってから
セゼル地方の
明日の風力は
32角度
バンドコ主人の
最近の体重は


テンプラ君
君は平気
なのか？
金色のグミの実
さっき食べましたから
ホラ
これを
かじって
ガリ
ガリ
にがいっ
ハラゴンドの
堀の工事で
3名の……
ヨネザアド酢ダコ祭に
おいて 大ダコの
ハリボテが落下し
うっ
…止まった
ああ……
頭の中が
ぶっこわれるかと
思った
どうして
こんなことが？


ええ このあたりは頭脳キノコが一年中はえていて
キノコの胞子のせいです
胞子ってこの散らばっているやつか!!
この胞子を吸うと世界中のさまざまな情報が
頭の中におしよせるのです
まったく頭の中が破裂しそうになったぞ
か弱いオツムだね


なに言ってんだ
おまえも
グミ食ったんだろう
甘いぜ
新聞屋
グミなんか食わなくても
オレは平気なのよォ
なんだと!!
胃袋も図太いと思ったら
脳ミソも図太いのか
うっ
なんだ
これは
グミの実が
効いてきたんです
こっ
これは
いったい?
貴方は
ずいぶん


いらない情報に飲みこまれて
踊らされてるのよ——っ


うう
苦しい
まもなく金色グミの実の
本当の効力があらわれます
あ
解きはなたれた
いえ〜〜っ
ああ……なんて気持ちのいい……


世界は いらない情報で いっぱいなんです
ああっ 気持ちいい
貴方はいつもこんな気分なのか
そーよ そーなの さーーっ
しっ
師匠!! その極意を教えて下さい
よろしい きびしい修行なのよ
あっ
どろぼう
なにすんだ コラーッ
え〜〜っ



金魚〜〜〜い金魚
おいしい金魚はいらんかねー
早く買わないと
食べちゃうよー
なんだか
どんどん馬鹿になっていくような……
厳しい修行なんて言っても


駄菓子屋の寝てるバアさんの耳元で大声出したり
ダンゴ屋で食いにげしたり金魚屋の商売道具盗んだりだもんなあ
金魚の生食いおいしーよォ
調子はどうですか
最悪です空しくなります
う
こっ
これはっ
金色グミのせいで見えるんです……
凄い
あいつはみんながはまる情報に踊らされないため
聞こえるんです



J. NADEIRA

第4話 望メバ・スベテ




おまえ
そりゃないだろう
テンプラからも
たのんでくれよ
音納花の
花粉はな
万病に効くんだ
いろんな者が
助かるんだよ
し〜ん
なにやってんだ
パンツ
いい所に来た


ヒデヨシの奴が 音網花の 花粉採ってくるのに
金貨3枚 よこせって 言うんだよ
とーぜんだろ
オレだったら 金貨5枚だって やらないな
偉いぞパンツ
金貨5枚に 値上がりよーっ
そんなぁ
きんきんきん 金貨5枚ーっ
前祝いなの よ〜〜っ


金貨5枚と いっても 命落とすかも しれないのにね
まったく 命知らずの ツケふみ倒し猫 だもんなあ
去年の 赤いタイコの男 悲惨でしたよね
ああ 失敗したあげく あんなに 苦しんで……
不死身の ヒデちゃんに
暗い話は ムダなのさあ
オクワ親父 ツケもみーんな はらうわよっ
翌日
サッ
サッ


サケノミヤローーーッ
変な鳴き声だねえ
酒はも〜〜〜っいらねえ〜〜〜ぞ
おまえまだ酔っぱらっているぞ
花粉採りは明日にした方が…と言っても
聞くわけねーべよ
いざ出発なのよォ
らんららん
なんともイヤな気配
こんなところ「らんらん」なんて歌っていける奴……
お待ちかね


金貨5枚
花〜〜っ
打楽器の音
正確にきざむ
ことを好む……
「死の淵に咲く
伝説の花」
行くぞ
伝説の
名手
伝説 名手
伝説 名手
ああっ
花びらが
……
うまい
なあ


花粉ちゃんに
楽々と近づき…
ドドドーン
おりゃう
パフッ
花粉
たっぷりこ
楽勝だべよ
ぐゃ
ら
あっ 花びらが
来るぞっっ
おお
っと
ドンドン
ホーレ ホレホレ
スルスル
ドンドン


ピタッ
あっ打つのを
止めたぞ
なにやってんだ
アイツ
…花びらを
おちょくってんだろ
ゴンゴロ
ブチッ
わっ
タイコが
キャー
ああっ
イタズラ
してるから
!



ぐえ
バチッ
ビガッ
くーっ
重い……
手のほどこしようがないよ
皮膚がドンドン
岩石化してきてる
ういいっいっ


体中が石になって あとは割れて 死にます
いやだ──っ 助けてくれ──っ
治す方法 ないんですか
ありません
ヒデヨシが 岩になったら 「ヒデ石(イシ)」くん
あははは
あら
ダジャレで笑ってる
!
パンツ君 もっと ヒデヨシを 笑わせて みろ
ええ?


酢ダコが空を飛んだおお
タコいなー
あははは
こんなんで笑うのか
おお
笑うたびに岩が消えていくぞ
死ぬとこだったのよォ
おう決死で採った
花粉だな
ム…
なんだこの蚊
いばってるぞ
蚊フン
ん
あははっおもしれええ——っ


ら
なんだ これは？
不思議な気配がする・・・
う〜〜っ なんだか 気分が 軽くなったぜ いちだんと——っ


たぶん
音網花の
花びらから
染み出した毒素が
完全にぬけたん
じゃないか
なるほど
ねえねえ
お駄賃ちょーだい
キンキン
金貨5枚──っ
あ〜〜っ君たち
素うどんくらいなら
ごちそう
するぜ
当然だろ
オレたちはおまえの
命の恩猫だよ
ら



ついてるな
ウドンが落ちてるぜ
えっ
なんでこんな所に？
おほほほ
変だなあ
そそ
ふう
こうなると酢ダコなんかかじりたくなるな
ザリ
そーだ諸君
酢ダコをおごってやろう
たまには銭をはらってやるぜ
魚屋さーん



あっ
酢ダコが木に生ってるぜ
すんごい木だっ
味は本物
どういうこと？
見当もつかないよ
やっぱりおまえか
酢ダコどろぼう


なに言ってんの
この酢ダコは木にはえてたのよ
ふざけた事を言うな
酢ダコはこの木にひっかかっていたんです
ヒデヨシはオレたちとずっといましたから盗んでませんよ
ええ…？
ウドン食いに行こうとしたらウドンが落ちててよ
酢ダコ食いたくなったら木にはえていたのサ
これらの事からなにがわかるん——？
パー
なにがだよ!!
夢は
願えばかなうんだぜ
にっちゃら
くっちゃら


馬鹿野郎
フェフェ
いーか
見てなさい
あ〜〜っ今度は
猫正宗の巨ビンと
紅マグロと
ダンゴ100本
食いてーーっ
さあ みなの衆
前進じゃ
紅マグロのはえた木が
待ってるわよーーっ
あっ
これは!!
どど


ドングリが
ガサ
カサ
カサ
ガサ
月光ドングリに手足がはえてるぞ
うえっへっへ
光だよ
光の手足だ
君たち ありがとよーっ


でも どうして
月光ドングリが?
考えるより
食うが
一番
むっしゃり
ら
なんだよ
おまえ?
これ…おまえの腹から
出た変な模様じゃないか
ん?
つか
つか


コイツ
紅マグロ代と
酒代よこせって
言うのかな
あ
ぺつ
らっ
模様がヒデヨシに
平伏している
3日後
いっぱいっ
すごいですねえ
ドングリがアタゴオルに
集まって来ますよ
ヒデヨシの
野郎……
いいなあ


王様よっ
ドングリの王様なのよっ
あ・か・わ・り・ーっ
んっんっ
ぴっかりこ…
月が昇って来たか……
どーれ
寝っぺが


これじゃあ
蛇腹沼じゃなく
ドングリ沼
だね
しかし……
月光ドングリが
ヒデヨシの見る夢に
反応するとはなあ…
おっ
ああ
始まった
スル
!
アララ
今夜は
いちだんと
……
夢は
自由なものだけど


自由すぎるよ

第5話 移ろい




セミ消し羽根かあ
セミの鳴き声が消える頃になると
これが現れるんだよな
でも どうしてこんなものが……?
やっぱり
アレの力だと思うよ


あら ドラネコ団
いーか おまえたち
物知りパンツの 言うことにゃ
セミ消し羽根が 出てくるのはな
この水晶に 刻まれた 古代呪文の せいなのだ
コダイ ジュモン？
そーだ カツラ
「ひととき 羽根に とじこめる」と 彫ってあるのだ
すると あの羽根の中に なにかがっ!?
親分っ いったいなにが とじこめられて るんですかっ
フッフッフッ それはだな


セミに決まってるわよっ
あっ
ヒデヨシ
夏がすぎると
セミの野郎が
消えるのは
この水晶のせい
だったのすあ
相変わらず
バカ猫ですねぇ
セミなわけ
ありませんよねぇ
セミじゃないのか‥
「あの羽根を通りぬけた時
すべてがわかる」と彫って
あるんですよね
そー
なのよ
ヒデ丸
そして
このオレが
通りぬけるのよーっ


ぺっ
オレたち
欠食ドラネコ団が
通りぬけるのさ
おーーっほっほ
ムリよムリ!!
オレたちには
石頭カツラが
いるんだぜ
ぶちぬけろ
カツラーーッ
がおっ
どけーーっ
ドスドス
あっ
にいいっ
ら
カツラ
しっかりしろ


頭突きでぶちぬけるなんて甘いのよ
ヒデヨシそれは！
雷火薬3本立て
ホレホレにげなされ
ズドッ
うわっ
ドス
しっ
しぶとい野郎だなあ


やっぱり博士にたのむしかねーかなあ
博士ってスミレ博士か
ホホホ もっとジジイの奴さ
えっ
このジジイの顔は覚えているが
フーコなんて女は知らないぜ
まったく
ヒデヨシが研究のジャマなので
鳥霧山山中に研究所を移していたんだが
つくづく ヒデヨシのありがたみがわかったよ



ありがたみ？
紅マグロ1本で危険な実験台になる奴なんていないからね
度胸なのよ
実験にこの身をささげるのよ——っ
命知らずのイヤシサなのよ——っ
これが完成したらマグロ1本でたのむぞ
おうっでもなに作ってんのさ
セミ消しの羽根を通りぬける器械


やるっ
絶対やりまじゅる
イエ〜〜〜ッ 最高〜〜〜っ 糠野目エライ
んっ
なにやってんだ あんな所で…
夏から新曲が浮かばないのです
パンパン
フーーッフエヒッ ヒラ〜〜〜ッリエ
親方ーーっ 紅マグロ食わせるから 悩むな〜〜〜っ
マグーッ ニャンフケ
5日後
なにを考えているんじゃ まったく
も〜っ 勝手に器械持ち出して


いーべよっ 早いとこ やっぺよ
出来たんだろ コレよーっ
パン
出来たけど こまかい点検が 終わってないぞ
実験台の オレが 平気なんだから ブンブン 行こうぜえ
紅マグロの ことしか 頭にない奴
うーーっ
あの羽根は 一種の磁場によって 作られているんじゃ
だからこの器械で おまえの体に同じ磁場を 起こすのだ
なに言ってんのか さーっぱり わからん
いいか 苦しくなったら 言えよ 中止するから
オウ
フーコちゃん 始めて
ハイッ
うっ
ビビ


バチ
しびしび
ぐわっ
しびびび
バチッ
出力が強すぎるっ
ほーっほっほっ
やめて唐あげ丸さん
あっ
消えたっ
しびび
うっ
おっ


らっ
おおっ
やったっ
通りぬけたぞ
博士ーっ
なんだアリャ
うっ
ワシにも
わからんよ
キッヘッヘッ
なかなか
凄いですなーっ


湧いて来たっ
新曲の構想が
湧いて来たぞっ
「ひととき
羽根にとじこめる」って
……このことなのか?
くっすお〜〜〜っ
セミの奴らは
どこへ消えたんだあ
こら
ウソつき水晶
パコン
「通りぬけた時
すべてがわかる」って
なにもわかんねえ
じゃねーか
ドッ
らあ
どうしたんだよ
ヒデヨシ
木がっ
木の中にっ
ああ!!


木の中にひとつずつ
……おかしなものが
ホラ ここよっ
水色の こいつ
なにも見えないよ
たぶん あの羽根だ


羽根を通りぬけたせいでふたりには見えるんだ
あっ
ニャ?
あっ見えたっ
なんですかコレは?
次々と集めていくよ
どういうことだ
一本引きぬくたびに


体が大きくなっていく……
こんな風になってもヒデヨシはヒデヨシだな
まったく
テンプラのを横取りしてる
えらいっ
もうこれ以上
大きくなんないみたいだぞ
うん
親方・
せつせせ旋律ががまままもなくくく


それにしても
あのテンプラたちの
形の中に
いったいなにが
入っているんだ
ねえ ホラ
ふたりがあんなに
大きくなると
集めていたものが
あんなに小さくなって……
まるで…!!
あっマッチだ
ひいいっ
凄い
森が


紅葉したっ


ひえっ
胸が燃えますっ
森が赤や黄色に火事みたいですよ
そうか
！
あそこでヒデヨシやオレの形をしているものは……
『秋』なんだ


秋っ
き〜〜〜〜っ
湧いて来た──っ
いい旋律
まるで導火線みたいに森を染めていくなあ
ああ
一本の木に一本のマッチか……
うっ


なんてことだ
オレたちの腕の中にもマッチがあるぞ
そーなのよォ
でも いくら ひっかいても 取れないのよォ
え!?
私の腕にも あるの?
あるぞ ホラここに
ええっ
でも どうして 体の中に マッチが?
わかりマッチえん


ひと雨ごとに
秋は深まり
あの独特の
秋の夜の妙なさみしさが
忍び寄る時
！
そうか
この胸が
痛くなるような
言いようのない
さみしさの瞬間


オレも

第6話 金の実




コロパン種屋
違うな
これは金の実じゃない
ぐそーっ
せっかく見つけたと思ったのにい
だから違うって言っただろ
金の実は青い点々なのよ
一粒30銅貨だぞ
探してやるぜっ
たっぷりと見つけるのさーっ
らっ


雪だーっ
初雪よーっ
積もれーっ
積もりまくるのよーっ
グーッグーッ
オレたちゃ欠食ドラネコ団
ゴッ雪だ
わおっ
しかしカツラほんとに見たのか？
ほんとよ


たいくつで
ココけっとばしたら
穴が開いた
おまえねえ
金の実って
植物なんだぞ
ここは
岩だらけ
じゃねえか
あっ
ほほほ
3日後
やーい
デブ猫
デブ猫
パン
パコ
なんだ
コノヤロ
ドラネコ
団めーっ
パコッ
ん？
誰だおまえら


元欠食ドラネコ団
今じゃ満腹ドラネコ団だぞーっ
なんだそのかっこう
服屋から万引きしてきたなあ
いーかおまえら
万引きってのはハンザイなんだぞーっ
おまえに言われたくないぜ
ちゃんとお金で買ったのさ
オレたち金の実ゴッソリ見つけたんだぜ
なんだとオ
ホラ
これをゴッソリな


どこで見つけたんだあ
鳥霧山の噴火口の中
えっ
まだタップリあるぞ
よーし
鳥霧山だな
バカですね アイツ噴煙上げてるところにあるわけないべよ
バカの王様だ
おーい おーい
見つけたのよーっ…
らっ


大晦日だっつーのに休みかよォ…なんて書いてんだ？
「下の野原に居ます　ー唐ちゃんー」
にゃ
「ヒデヨシ君借金はタダです」かな
いーかげん字憶えなさいよ
字なんか読めなくても生きて行けるわよ
下の野原でなにやってんだ？
おっ


カッコえーっ
いーでしょう
かまくらかーっ
ところで金の実のあるとこわかったのよ
採りに行こうぜ
金の実ならホラ
種屋から買ってきましたよ



ドラネコ団が 発見したんだよ サンゴの森で
にゃ？
鳥霧山の 噴火口の中って オレに 言ったわよ
噴煙上げてる とこに
実があるわけ ないぞ 騙されたんだよ
ぐぞお
ドラネコ団 めええ
よくも騙したなく
オレたちゃ その気分を いつもおまえから 味わってんだぞ
ボフッ
だいたいよおっ 大晦日だっつーのに なんでかまくら なんか造ってんのさ
この金の実の せいですよ


なぬ？
「金の実は古来
「晦日の実」などと呼ばれ
楽しまれていた」と
「種の博物誌」に
のってたんだよ
晦日の実？
ああ
年越しの晩の
日没になったら
使うらしいのだ
ウエヘッヘッ
なんだか面白そう
だな
よーし
オレも
種屋から種
かっぱらってこよう
そうか
どうりで
アチコチで
晦日くらい
謹慎しろよな


そんなことだろうと
思って
ヒデヨシ君の分も
買ってきましたよ
わお
唐ちゃーん
おーし
かまくら
造るぞう
オイラも
手つだい
ますよっ
ゲッ
ヒデヨシ
あっ
いえーーーっ
出来たての
かまくらにーっ
爆弾投下
うわっ
落盤だっ
なにすんだ
コノヤロウ



ほほほ
造りが甘いわよ
サッ
もぞもぞ
よーっ諸君ワシャかまくら研究家のスミレ博士である
正調かまくら造りをご披露しようゾ
先生どんな点に注意を?
まず雪質じゃよ
粉雪ではパサパサしてダメである
しみ雪!! ヨダレがタランコと入ったような水分のある雪が好きなのよ
まず
このよーに雪玉を転がして
こんな風にでっかい切り餅のよーな形に
グッグッと押し固めて
なにやってんだアイツら


こんな風に
こつこつとな
積んで
いくのじゃ
ホーッ
ずいぶん
まともじゃないか
いかにも
これでは
スミレ式とは
呼べぬ
スミレ式
かまくら
造りだとォ
ヒデ丸 おまえ
知ってんのか?
いや
知りませんが
博士ならきっと
大胆な造り方を
わく
わく
スミレ式かまくら造りの
王道をお見せしよう
ついて来たまえ
うっ?



なんのマネだ ヒデヨシッ
ここはオレが造ったんだぞ
まくまくっ お主は幸せ者じゃぞ
ワシとここで大晦日を過ごすのだからのーっ
えっ
さしつさされつ ふたりっきりでな
だっ
誰がおまえなんかと過ごすもんかっ
まったく晦日にこんなアホと居られるか
プンプン
あらら
どう？
これがスミレ式じゃ



乗っ取りだ
最低猫 話にならん
まったく
かまくらくらい 自分で造れよな
えーっ この金の実を
かまくらの壁に つっ込めばいいんだな
おまえ 日没だよって 陽が沈んでから 言われただろ
オレは 言うこと 聞かん猫
ぐっ
陽なんかすぐ沈むぞ
うっ
わっ
ああホラ 言うこと 聞かないから
オオッ
凄い


わおっ
なんとタコかまくらではないかっ
かっこいーっ
あ〜〜あヒデヨシだよ
あいつのソバに造ったのは失敗だな
ムカつく奴だな

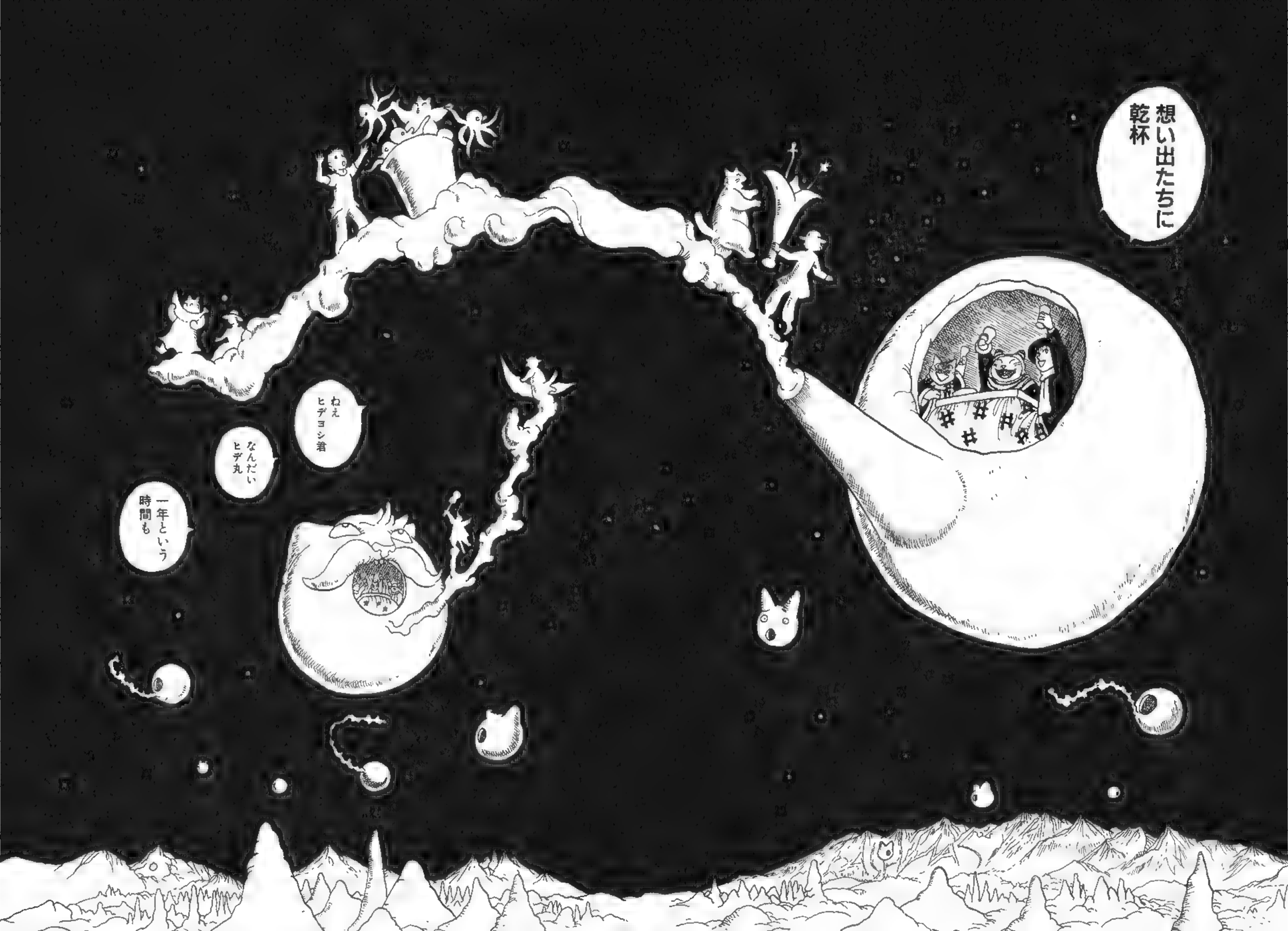

おっ
ぁ
フッ
パコ
うわ
パコッ
ホホホ すばらしい
タコの口から雪玉がっ
めでたいわーっ 正月ちゃーんっ
ズフッ
静かに… かかわるなよ
大晦日もめでたいわぁ
とんでもないかまくらに入ったなあ
ヒデヨシ 騒いでないで コタツに入って飲めよ

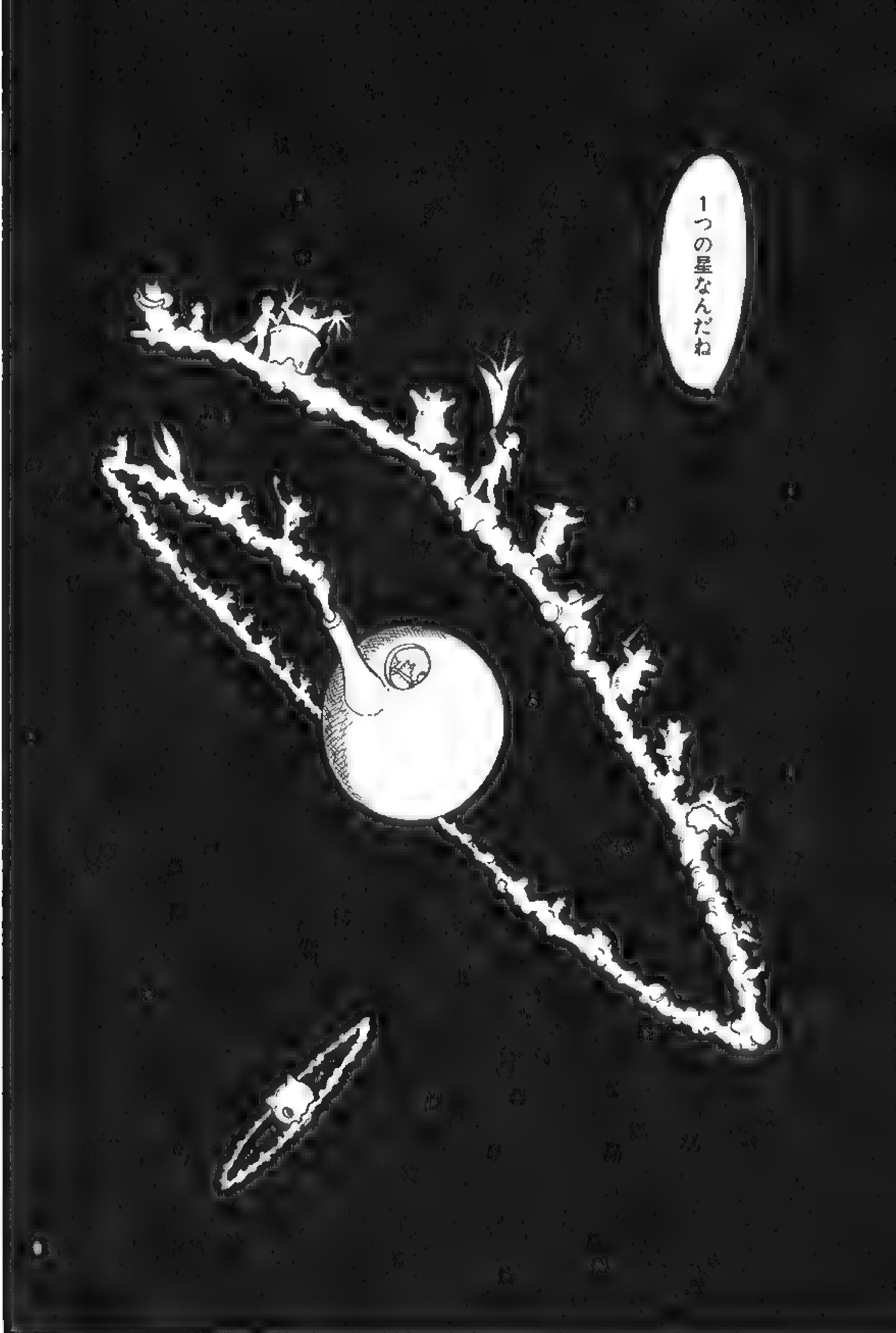

ホラ
どもども
陽が沈んだぞ
よーし金の実を
では 私が
しーん
……んーっ
タコになりませんね
アイツは時間を守らないから変な形になったんだろう
それにしても


うるさいねー
ハーッ よいよい 良い年をーっ
中に入ろう
ら
タコの口から なんか出てるぜ
ん
あれ
これは


オレが春に三日月魚を釣り上げた時の
ええ
ホラ
釣った瞬間ヒデヨシ君がかぶりついて
みみじ
んまかったなーっあの魚は
うっ
オオこれは
テンプラの家の風呂に生ダコ入れた時の!!
墨風呂事件ですね


あん時は いくら風呂 洗っても 垢が しみてなあ
だから 風呂桶盗んで きてやったべよ
そうか 金の実を さし込むと
かまくらの雷が 今年一年の 想い出を やるんですね
そう みたいだね
ら
わっ かまくらが
通りすぎた
ききっ 金の実スゴイ
オイラたち のも 足切れて ますよ
ホントかっ
えー それでは


想い出たちに乾杯
ねぇヒデヨシ君
なんだいヒデ丸
一年という時間も


1つの星なんだね

第7話 虹の煙岩（けむりいわ）





正月くらい金はらえーっ
食いにげぞめなのですーっ
あっ ヒデヨシどろぼー
親方 ヒデヨシだ気をつけてっ
正月はウナギだべっ
あっ
わっ
初食いにげですな
ほーらテンプラお年玉
ぐっ
うっ
ドンブリ持った奴が金はらうのよーっ
柏毛さんウドン代いくらですか
えっ
どうしてテンプラが?
あいつの買った年末富クジが当たってるんです


パンツの家
「そのとき」
「巨大な鯨のぬんめりとした頭に向かいビッダラ船長は呪いのモリを」
行けっ ぶっ刺せ ぶちのめせっ
プラ・テン・ガラダベ
んっプラ・テン
パンツ おかしな水晶見つけたって?
ああ スゴイやつ
早くーっ パンツ 続き読んで くれーっ


ヒデヨシ なんでココに 居るんだ?
元旦から 帰んないん だよ
文学に 目覚めたのサ
「鯨と船長」全巻 読んでもらうまでは 帰らないわよ
面白いんだぜ 早く続き
字教えるから 自分で読めよ
読んで もらうのが 好きなのサ
へーっ コレか
ああ
凄いなあ どうやって 内部に こんなもの 彫れたんだ ろう
古代の民は オレたちより すぐれて いたんだな



でも
どこで
見つけたんだ?
見つけたのは
オレなのよっ
エッヘン
え?
おまえが
元日の晩
麿あげ丸さんが
さわいだだろう
あんとき
親方が
花火を
シビレ森で
ぶっとばして
よお
幽霊の木が破裂して
中からコレが出てきたのサ
えっ あの木が
終わったのか
んなこた
どーでも
イイんだよ
ビッダラ船長
読んでくれーっ


「するとその巨大な鯨は青腹大帝の名にふさわしくググウッと」
倒せっ青腹
フーム
うっ
どうしたパンツ?
穴をつっついてたら煙がっ
おんやその煙の色は!!
ほほほ


アタゴオル七十七不思議の一つ「虹の煙岩」ちゃん
火山でもないのに七色の煙を……
ナスナ時代の技師たちはなんてこんなものを作ったんだろう
テンプラちゃんワシの説を聞きたいかね
どうせ「この岩の中で虹が大ダコを煮ている」とかだろ



ぐっ
すんばらしーっ
その髭
ワシに売ってくれっ
ワシの秘蔵の島ダコの燻製10回シャブらせてあげようぞ
勝手に使えよ
おおっ
この窪みに水晶が合うみたいだぞ
えっ
うまく入んないな
キュッ
ワシが押し込んでみせよう
あっ
ドドッ
くそっ
しぶといヤツだ
やめろヒデヨシ割れるぞ
ドンドン
ドンドン


ズゴッ
入ったぞ
わっ
あ
なんだ
コレは!!
冬の楽しさは
落とし穴作り
だぜ
グーグー
オレたちゃ
欠食穴掘り団
ヒデヨシの
野郎を
落としてやるぞっ
親分
早く
早くっ


オオッ凄い
なんの光なんだ
見た見た
見ましたよーーっ
巨大な光が野原にバラまかれて
シビレました
ヒデヨシが水晶片を虹の煙岩に無理やり押し込んだせいなんです
あれっ
ヒデヨシ君


オレはビッダラ船長
鯨は居ねがあっ
青腹の野郎はどこだあ
それって「鯨と船長」ですね
オイラも大好きなんですよ
そーなのよーっ ハマッちゃってるのよーっ
でもアレ長いですよ
どこまで行きました?
船が沈んで青腹が消えたとこ
そのあとは確か……


「船長が気づくと白い砂浜の波打ちぎわに女占い師パキが夜明けのような笑顔で立っていました」
「教えてくれ青い鯨はどこへ行ったのか」
すごいなあヒデ丸
暗記したのか？
何回も読んだので
女占い師パキそいつが知っているのかあっ
よーし こうなっては占い師テマリの家に突入だあ
テマリちゃんならうちの屋上で修行してますよ
ドドド
おーしっ
ドスドス
屋上で修行？



ええ 占いの集中力を高めるためにプク松翁と……
次に動くのは
左の足の三番……
パキッ
教えてくれ青い鯨はどこへ行った
うっ
なによっ正月からワケのわかんないかっこうして
ジャマしないでよ
もう一度聞くぞ
大鯨の青腹大帝はどこにいるんだ?


鯨 鯨って
鯨は海にいるでしょう
ぺっ
やっぱりテマリじゃ無理だぜ
オオッ青腹よ
このビッダラ船長がぁ必ずやぁ
あれ
あの煙は…!!
んっ
ズッ


わおう
ドウッ
なに このバケモノ
出たな
青鯨っ
なんか
メチャクチャな形
手が生えてる


鯨に手……生えてないの？
生えてませんよ ヒレならついてますが
それじゃ御飯ちゃわん持てないぞ
これ……おまえの想像した鯨か
んまーっ お寒い想像力
なんだとォ
テマリなんか鯨に飲まれてしまえいっ
うっ
キャッ



テマリちゃん
アーラ思いどおり
ヒデヨシ早くテマリちゃんを助けるんだ
船長とお呼び
くっ
船長……あの鯨を倒しテマリちゃんを助けましょう
テマリなんざどーでもいいが
オレの弟を飲み込んだあの鯨はゆるせない
船を!!「トリマッキョ号」の出航じゃーっ
かっこいい
オッ
うっ


なんだ コレはっ
おまえ想像力 ないなあ
くっそーっ
これでは船とは 呼べん
ホラホラ ヒデヨシ君
これが トリマッキョ号の 挿絵ですよ
おお コレよコレ
見えた 見えたわよおお
おっ
さあ 野郎ども
青腹野郎を ブチのめすんだっ
オーッ
待てーっ 青腹ーっ
テマリちゃんを 返せーっ



テマリなんか
どーでもいい
ヒデ丸　モリだっ
モリを持ってこい
モリなら持ってる
じゃないですか
フッ
まだまだ
子供よのう
これはヤリ
オレが
欲しいのは…
ホラホラ



これがモリだろ
それは「森」でしょう
船長が投げるモリって……
そんなもの投げると思ってたのか
でっかい鯨を倒すんだぜ
モリぐらい投げて当然だべよ
行くぜ
青腹


さーっ このモリを 食らって
くたばるの じゃーーっ
弟の無念を 晴らすのは 今だっ
あれっ
鯨が
手を合わせて いる
よーし


弟のことは
水に流そう
えっ?
命だけは助けてやりましゅ
!
そうかァ
「鯨と船長」を聞いていたのはヒデヨシじゃないんだ
ええっ誰なんですか!?
熱心に聞いていたのは


奴の「食い気」
んめ〜〜っ

第8話 ウッツメ




たまんねよぉ
しびれる味なのよぉぉ
これって……犯罪的なニオイですね
腹わた腐り汁です カニの気つけ薬なんです
おかわりくれーっ
今 発酵させてますから明日の晩なら飲めますよ
くーっ
明日かーっ 早く明日になれい



あら…もう？
「また明日 独奏曲八番」
店じまいかよォ
ツケよーっ ツケなのよ
逃げるように去っていく彼
ではヒデ丸 あとはよろしく
ハイ 親方
唐あげ丸さん
時々 こんな風に 突然閉店するよね


実はですねえ……
すおーっと
鍵をかけて中でなにかやっているのです
この部屋ってなんなんだい？
開かずの部屋
いつも鍵がかかっているんです


なにやってるのか聞いたことあるのかい？
はいっ でも教えてくれません
…防音してあるな 気配すらない……
作曲のための瞑想でもしてるのかな
腹わた汁が オレを呼ぶぅぅ
カリ
カリ
屋根裏部屋に棺が置いてあるって聞いた以上
明日まで待てるわけねーべよ
ん？



亀さん 亀さん
お散歩さん
大変です
大波
でーすっ
おう
助けてーっ
助けてーっ
亀さんっ
あやうしっ
ホーッホッホッ


なにやってんの?
わ
ヒデヨシ君こそっ
どうしてココに!?
そんなことより…なんだかソレ面白そーだな
チョッと!!起こして下さい
え?
ホラよ
ヒデヨシ君
見てたんですね


見たわよっ
亀さん 亀さん お散歩さん
みんなにだまってて下さい
絶対に内証(ないしょ)にして下さい
ぐえっ
内証にするわよ
でも内証代として
腹わた汁の大樽2ついただきます
いーですが私は貴方を信用できません
10日間だまっていたら渡します
10日間か
楽なもんだぜ
3日後
ハハハ



苦しい
秘密を守るってこんなに苦しいものなのかあ
なにふるえているんだ？
ヨダレたらして……
口数も少ないし…
おまえなにか隠してないか？
ドキ
別にーっ
親方 なべが沸騰してますよ
シュー
熱っちち
手の皮薄いねえ
オレが持ってやろーっ


じゃヨロシク
オイラ珈琲豆
挽きますから
……
このフタ
亀さん
う
ペタ
ヒデヨシ君
あんたあ
いーですかっ
みんなにバレたら
絶対 汁あげませんよ
へいへい
どーしたん
だい？
なんでも
ないわよー
あ〜っ
しゃべりたい



そーいえば
ほうずき沼で
銀色の甲羅の
大亀が見つかったってよ
ギク
!
銀色の!
カメ……
しゃべり
て〜〜っ
もおお
さらばじゃ
ドスドス
なんだアイツ
ここんとこ
変だなあ
ふう
秘密を話さないって
こんなに
苦しいとは
思わなかったぜ
ここなら
だいじょうぶ
だべ



亀のハリボテ
着てーっ
部屋で
バタついてる奴は
だーれだっ
それは
粉雪亭の
唐あげ丸
なのさーっ
亀さん 亀さん
お散歩さん
翌日
森の諸君
ワシが作った
入魂の壺を見よ
ららっ
育壺親父


この壺の原料土は真黒森の黒土じゃ
それがどーした青壺
んごんごおっ
ワシの入魂の焼き方によってな あの森の静寂が響くのだ
静寂が響く!?
あそこは不吉だから誰も行かないからなぁ
諸君に特別に静寂のすばらしさを聞かせよう
なにしろ今日はワシの誕生日
コン
ウン
昨夜の静寂の響きじゃ
まるで鐘の音みたいだな
爺くさ



亀のハリボテ着てー
うっ
部屋でバタついている奴は誰だっ それは粉雪亭の唐あげ丸なのさー
ヒデヨシの声だ
亀さん 亀さん お散歩さん
親方 亀のハリボテってなんですか
ギャーッ
4日後
重症です



自分という者への
自信が砕かれて
廃猫状態です
青壺が
変な壺
作るから
だよ
お前が
ペラペラ
しゃべった
からだろう
どーせ
しばらくすれば
元にもどるさ
それがなあ
……
見たまえ
いいか
にゃ？
なんだ？
この気体？
あれっ…
唐あげ丸さん
ゲッ


なんだ
コイツは？
これ……「ウッツメ」かっ
ウッツメ？
心が弱ってると取り憑いて心を破壊するという……
さすが物知りパンツ


透明で見えないんじゃが特殊な気体でこうやって見えるんじゃ
こいつが取り憑いては手のほどこしようが…
コラてめえ
唐あげ丸から離れろいっ
ドスドス
ぺっ
オレがほどこしてやるよっ
やめろヒデヨシこの気体の中では刺激するな
そんな弱い奴に取り憑いて
根性無しめっ
チラ


ホーレホレ
てめえ
堂々と
勝負しろいっ
シャーッ
あっ
うっ
まるで
鉛色の雲が
切れていくような
なんてイイ気分
なんだ
うくっ
気分悪いよぉ
盗んだ紅マグロ
落としたような感じーっ
なんだとっ


紅マグロ落としたような感じだとォ
5日後
らんらら
モミヤ魚屋さんごきげんですね
へっへっへっヒデヨシへの長年の恨み
晴らしまくってるのさ
え？そういえばアイツ最近見ないな
おっ
見っけ
うう…
ああっヒデヨシ君…これ!!
これがウッツメなの!?
ツキミ姫見えるのか
ホラ


うわっ
どうしてこんなにいるんだっ
1匹憑いても…平気だったから
あの医者に他の奴のも引きうけたのさ
そしたら急に気分が真っ暗なのよォ
なにやってんだよ
そーか
このバケモノのせいなのか


おいヒデヨシ
あ〜っ 魚屋さん
オレって ダメな奴だあ
盗んでばかりで よお〜っ
ビタタタタッ
あやまるなら コッチだろ
ぐわっ
酢ダコ様っ タダ食い ゆるしてくれえ
オレなんか 草でも食ってりゃ いいんだ…でも 腹もへらないし
なんにも 食べませんから おゆるしを
コッチは?
ドサッ
べべっ


紅マグロ様 ゆるしてくれっ
盗んだあげく 頭づきくらわせて 食ったりしてえ
ヨダレが 流れていないな
ウッツメが 言わせる お詫び声か
でも なんだか 哀れだなあ
哀れなのはワシや タダ食いされた 魚たちさ
ホレ 満鯛にも あやまれ
うちのウドンにも あやまってもらうぞ
ゆるして くれえっ
も〜っ草しか 食わねから〜っ


次々と食い物店が来たよなあ
ジャランダ森からまで来るって話だぞ
じゃまた明日
あいつ食い物に囲まれてまだ土下座してんのかなあ
ウッツメが離れるまではどうしようもないさ
明日になったら離してやろう
哀れすぎるよ
えっツキミ姫出来るのか？
たぶんね
ん
だいたい
なんで逃げようとするの



アタゴオルは猫の森② おわり

ますむら・ひろし先生の最新情報はホームページ

「ごろなお通信」

をご覧ください。
イベントや新刊の情報、ファンと先生の
交流の場となる掲示板など、楽しみいっぱいです。

http://homepage1.nifty.com/gorongo/



アタゴオル余波2

ますむら・ひろし

火山小僧だった僕にとって、二千一年の冬は、忘れられないものとなった。東京駅の近く、大手町のビル街のなかにある逓信総合博物館で、一カ月間開かれた展覧会「地球の声を聞いた男・郵便局長と昭和新山」。僕はこれに痺れまくった。

ことの始まりは太平洋戦争の末期、昭和十八年の十二月。北海道の洞爺湖の近く有珠山の山麓の麦畑から噴煙が上がり、約二年間の噴火活動の末、世界的にも珍しい溶岩丘を持つ火山が誕生した。この誕生過程を郵便局の外壁にテグス糸を張り、定点観測をし続けた郵便局長こそ、三松正夫という方で、彼はその後、私財をなげうって昭和新山を買い取りその生涯を火山の保護に生きる。それは住民にとっては狂気のさたにみえただろうが、一般人を越えてしまう行動の奥にある生き方には、欲にまみれた人間の胸をグサグサと刺す「不思議な槍」がみえてくる。爆発し噴煙の湧く中で、たった一人地獄のような風景に立ちながら、三松さんの耳には、地球の声を聞く瞬間がきっとあったのだ。宮沢賢治の生涯が今も未来も人の心を打つように、僕は三松正夫という人の生涯が今よりももっと未来の人々の胸に不思議な槍を投げ込み続ける光景を予感する。

展覧会会場には手塚治虫氏の「火の山」という作品の原画とともに、僕のアタゴオルでの昭和新山ショック、『神様お願い』の原画も展示させていただき、光栄の極みだったのだが、会場での最大の目玉は、やはり三松正夫翁の観察記録。なかでも噴火の絵画は僕の心をグルグルさせてくれた。観察者にして表現者。それは科学的観察眼と絵描きの心の合体の妙で、まさに他の誰にも描けない愛に包まれていた山々たち。痺れました。そして一月二十八日には、三松正夫記念館の館長・三松三朗氏と僕の火山対談があり、幸せにしてアガリまくりの二時間半。三朗さんの肩越しに正夫翁の気配がし、その上に昭和新山が見えた瞬間など、壇上の僕には地球の声の気配がジュワアと伝わり、快楽の金縛りでありました。読者の皆様、もしも北海道に行く機会があっ

たら、昭和新山の姿とそのソバにひっそりとある三松正夫記念館を訪ねてください。

「火山とは、噴火してこそ火山である。噴火しないとつぎの噴火はエネルギィを溜めすぎて、大噴火になる危険性もあり、ほどほどに噴火していた方がよいとも言える」。ううむ、やっぱりホンモノの言葉はエエナアと展覧会の余韻のなかで、作品解説と行こう。

『雨ノ尾ッポ』。かつて飲み込んだものを洗濯するレパ鳥の話を描いた時、傘売りのオヤジがチョコっと出たのだが、僕のなかで「陽気な傘売り」となって記憶されていた。梅雨の季節だしなあ、と想った時、陽気な傘屋を登場させたくなったわけだが、途中の見開き、なんとヒデヨシとツキミ姫が相合い傘状態になっている。本来ならここはテンプラとヒデヨシのはずなのに、なんともロマンチックな気配となった原因は、読者二名が僕の庭まで来て「今度結婚することになりました」などと聞かされたことと、関係あるとみた。また、この話のラストシーンで種田山頭火のごとき猫が俳句的に現れてしまうことも、なにやら始終川柳のごとき言葉を我がホームページに書き込む御仁のネッチョさ



が、作者の脳に張り付いたせいとも思われ、つくづく日常こそが作品の源の感深しであります。

『胸鳴胸泣かき氷』。二百三十枚の原画を展覧した「ヨネザアド帰還」原画展の八月が迫る七月。南米パラグアイやベー



ノスアイレスやサンパウロで、僕は濃いフッチボールの沼にドップリコと漬かっていた。こうした混沌の中で描かれたこの作品の誕生のキッカケは、「故郷の山に向かいて、言うことなし、故郷の山はありがたきかな」という声とともに存在する斜平山にある。たまに田舎に帰ると、そこから野田への帰り道、僕は何か元気をもらったような「おおし、もちっとヤルぞお」的な新鮮な元気の感情になる。それはたぶん、かつての高校時代や中学時代の自分の心が、斜平のモッワリとした緑の膨らみのなかから、鏡のようになって浮かんでくるのだ。米沢での原画展が迫ることで意識が米沢へと飛び、斜平山が僕に描かせた作品ともいえる。

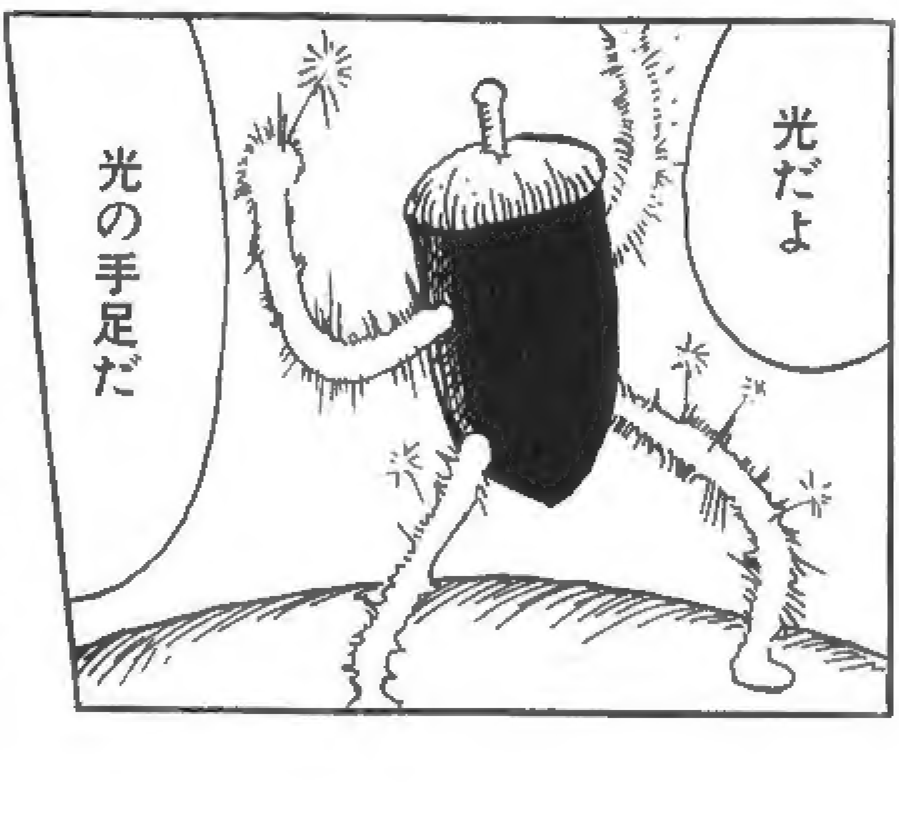
「心の耳」。米沢での原画展の最中に、この作品は描き続けられ、初のホテル缶詰状態での作画となった。毎日の夕方のお茶会や連日の夜の大酒飲み大会などをしなければ、もちっとノンビリとできたものをと思うが、鹿児島・熊本・福岡・島根・広島・岡山・神戸・京都や北海道やら全国から飛行機や深夜バスや新幹線や車ではるばる米沢まで来ていただいた以上、そりゃあ体の続くかぎりのオモテナシをしますわ。十日間で六千人近くの入場者というのも感動で、瀧口君をはじめとする原画展スタッフのみなさんに、再度お礼を。「おしょーしなっし」。

こうしたお祭りの中、朝起きると朝食食いに二百メートル先の親戚んちに行くのも惜しくなるほど、午前中もくもくと原稿を描き、午後一時のサイン会から三時過ぎからのお茶会、そして夜の宴会と回り続け、部屋は頂き物の酒瓶の山、貰い物を開いて食いまくりつつ描くという生活。毎晩の溜まり場と化した飲み屋さん「弁慶」、お世話になりました。お礼として、アタゴオルの高級料亭に登場です。



さて、海外旅行に行くと、その間、日本の情報がとぎれ毎日読んでいた新聞もテレビも見ない生活になる。そして戻ってくると、「ああ、日本って、いらない情報が多すぎる」「なんでメディアはあんなに興奮して、冷静さなくしているのだろう」という想いになる。本当に必要な情報は意外と流れていなかったりして、いらない情報の馬鹿ドラム音に踊らされる手足は、悲しいものに見えてくる。最後の場面の画像はいわずと知れた斜平山だが、ホテルの部屋から見えた姿を下書きしたもので、まさに原画展という祭りの記念図。そしてあの十日間の濃い時間たちこそ、忘れられない未来への約束。

『望メバ・スベテ』。



米沢での夜毎の宴会で、安易な駄洒落を始終飛ばす男がいた。この駄洒落というものを僕は昔は毛嫌いしていたのだが、いつしか駄洒落に感動しはじめた。あの独特の雰囲気壊しの瞬間、あたりをムカっとさせることに痺れ出したのだったが、こうした駄洒落の応酬から解放されて、このような話となった。ここに登場するドングリを見てると、思い出すのは宮沢賢治の作品「どんぐりと山猫」を描いた時の風景。どんぐりに手足を付けた絵とはどのようなものかと、お茶の水の喫茶店で天沢退二郎教授と「こっちに足ですかねえ」な

どとやってる光景は、異空でクスクス賢治さんが笑っているような気がした。

『移ろい』。都市に住んでいると秋の気配は微かなものだが、緑のなかに居ればあの紅葉という色彩の変化に息を呑むことになる。僕の家の庭にもキチンと秋は浸り来て、落葉や木の葉の変色で、ううむと感じることになる。読者の感想に「これはカラーで見たい」とあったけど、まさに紅葉を白黒の世界で描くことには脳が紅葉状態になりました。

『金の実』。一年の最後になると、どうしてもその年の想い出のことが意識され、あるときはそれらがすべて消えていくことになったり、今回のように想い出が現れたりと



なる。しかし、なにかしら最後の言葉が余韻のように入ってくるのは、想い出も、一年も一生も、それらは一つの星というククリのなかに有りながらやがて消え、そして残るのは宇宙といった意識の空間の感覚。

『虹の煙岩』。想像で描く絵の素晴らしさという点で、子供たちの奔放な絵に勝てるものはない。鯨を描こうとした時、ヒデヨシの想像力の奔放さを僕は描くことが出来なくなっている。それは、描くという行為が常に時間の流れのなかで作者を年老いて行かせるからだ。子供たちの元気な絵、あの気配の素晴らしさは瞬間的なのだろうか。

『ウッツメ』。気持ちは一年中パキンパキンなわけはなく、僕も大きな波のように上がったり下がったりする。自分の中にパンツ的な気分で世界を見る視線や、テンプラのように感じる意識や、唐あげ丸のように集中する気分や、ヒデヨシのよーにいい加減に元気な気分や、それらがグラングランに渦巻いているのだ。もともと謎めいた頭脳の唐あげ丸氏、部屋にこもってこのような解放感を味わっているつーのは、結構偉いヤツだと思う。世界を見渡せば、まともな感情でいるものはウッツメのごとき、鬱々とした気分になるのは当然なのだ。まったくやりきれないほど悲しい無意識に覆われたこの国に住む以上、僕は何度でも、笑い猫のその笑い声を、心底で聞く耳を、ピンピンにはやしたいと思う。



（初出）コミックフラッパー 2000年8月号～2001年3月号

MFコミックス
フラッパーシリーズ

MFコミックス
アタゴオルは猫の森……………2

2001年 4 月 1 日 初版第1刷発行
2001年 11 月 22 日 第2刷発行

著者……………ますむら・ひろし

発行人……………松岡博治

発行所……………株式会社メディアファクトリー
〒104-0061 東京都中央区銀座 8-4-17
TEL 0570-002-001 03-5469-4760(編集)

印刷・製本…………大日本印刷株式会社

ISBN4-88991-779-9 C9979